

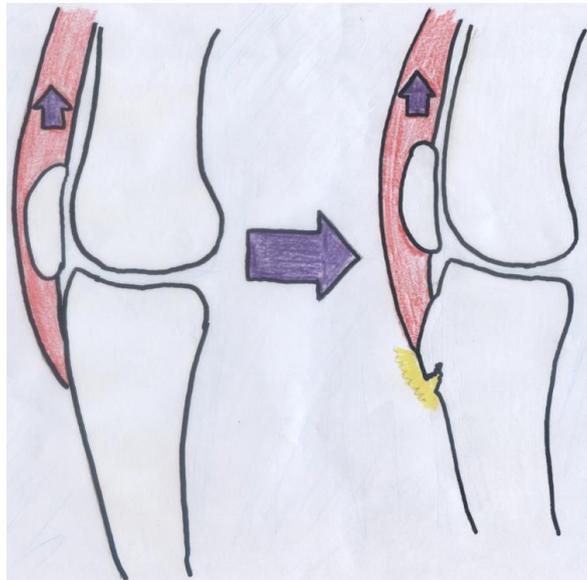
オスグッド・シュラッター病 (Osgood-Schlatter)

症状

・膝の皿の下が出っ張り、運動したり、指で押ししたりすると痛みがでます。休むと痛くないが運動するとまた痛みが出たり、赤く腫れたり、熱を持ったりする場合があります。

原因と病態

・成長期（10～15歳）にジャンプのし過ぎか、ボールの蹴り過ぎで発症する。ジャンプをする時やボールを蹴るときに使う太ももの前の筋肉（大腿四頭筋）の使い過ぎで、骨に負荷がかかり、出っ張ったり、骨が剥がれたりすることで痛みがでます。



診断

・上記症状と指で押す時の痛み、腫れの状態を診ますが、診断確定のためX線検査（レントゲン）を行います。

予防と治療

・成長期に起こりやすい病気で、成長が終わると多くは治ります。この時期はスポーツを控えることが大切です。

痛みを強くさせないためには、太ももの前の筋肉（大腿四頭筋）のストレッチやアイシング等を行います。痛みが治らなければ薬や湿布を処方します。

ストレッチ

立位



座位



アイシング



スポーツ復帰

・痛みがなくなればスポーツは可能です。発症後 3~6 ヶ月はスポーツをすると症状が強くなるので、スポーツ前後に上記のストレッチやアイシング、ベルトの装着などをした上でのスポーツをすることをお勧めします。

装具の値段 ¥6,790 円 保険適用 (返金割合 7 割) *手続きにより返金になります



***何か分からないことが御座いましたら、当院までご来院ください。**